

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都世田谷区桜新町 2-29-3
園名	社会福祉法人 菊清会 さくらしんまち保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身の回りの色んな素材で作って遊ぼう！

<テーマの設定理由>

当園は定期的にアトリエ活動を行い、絵画や制作を異年齢でダイナミックに楽しんできた強みがあります。それもあって子どもたちは造形活動に強い興味関心があります。今回は日常生活で何気なく使っている素材を活用して、色んな工作に探求的かつ協働的に挑戦します。

2. 活動スケジュール

毎月の誕生会において、職員からのお祝いとして、お楽しみの出し物がありますが、毎月一つの身近な素材にスポットを当て、制作と遊びのデモンストレーションを行います。これを導入として、制作意欲が掻き立てられた子どもたちが、その素材を使って制作に取り組みます。誕生会直後に取り組むことが多いですが、継続して日常的に取り組み続けることもあります。年間を通じて実施するため、取り組みは多岐に渡ります。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

日常生活で扱う、ありふれた何気ない素材を取り上げました。トイレットペーパーの芯や輪ゴム、コンビニ袋や紙コップなどです。購入することも保護者に寄付してもらうこともありました。併せて制作をするためのハサミや粘着テープといった道具も多く必要となりました。その中で重要であったにも関わらず不足していたものが制作時に使える水場(シンクと上下水道)でした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

一つの例として古新聞紙を使った制作と遊びの中でも探求的な取り組みが見られました。新聞紙を破って袋に詰めることで立体的な制作物ができると知った子ども達は雪だるまや人形などを試行錯誤しながら工夫して作りました。紐で縛ることで形を作ることで自分が作りたいものの形にしていました。まさに探求的な活動でした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

制作において最初は上手くできず試行錯誤を繰り返したり、子ども同士で教えあったり、職員からのデモンストレーションからイメージを膨らませ、自分たちでアレンジして派生した形の制作や遊びに挑戦することもあり、まさに協働的な活動となりました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

取り組みを終えて職員が振り返りを行なった上での気づきとしては、日常的にありふれた素材を取り上げたことで、身の回りにある物を一つの素材として捉えることができるようになり、子どもの興味・関心が高まったことで、探究的に制作に取り組む姿があったという点です。職員の分かりやすいデモンストレーションを見ることが導入となり、要領を得た形で取り組むこともできました。結果的に子ども自身で試行錯誤しながら探求的な制作を行うことができたと感じました。また子ども同士の関わりも多くみられ、教えあったり、アレンジを見せあったりしながら協働的に遊ぶ機会になったことにも気がつきました。